

## 英國の保育學校

倉 橋 惣 三

### ○近世の社會的幼兒問題

近世に於て、社會的に幼兒の問題を注意するやうになつたのは、先づ第一には人口政策の上から起つて來た問題である。詰り生れて一年間位の子供、或は所謂嬰兒期と名付けられて居る二三歳位までの子供に非常に死亡率が多い。其死亡率が多いと云ふことは色々の原因もあるけれども、大きく考へて見れば要するに家庭の缺陷に基くもので、其家庭の缺陷と云ふ中には二つの理由がある。一つは家庭の物質的缺陷と、一つは幼兒養育者としての母の資格に於ての缺陷である、其物質的缺陷と云ふのは普通に云へば詰り貧乏と云ふことであるが、貧乏と云ふことに基いて、住居が狭いとか、或は食物を充分に與へることが出來ないとか、或は幼兒に適當な溫度を調整することが出來ないとか、或は適當な空氣を供給することが出來ないとかと云ふやうな色々の缺陷があ

る。それから母の方の資格に於いては、是は又二つの問題があつて、一つは母が家から外に出て勞働をするに、所謂工場勞働と云ふものが始まつた爲に、母親が自ら自分の子供の世話をすることが出來なくなつた。即ち其の根本的意味に於ける母の資格の缺陷である。それからもう一つは、假に家庭に母が居ても、其母が子供を育てると云ふことに於て無智である。適當な乳の與へ方も知らぬし、適當な食物の提供の仕方も知らない。殊に子どもを精神的の訓練の方面に於て母として非常に無智である。斯う云ふ理由に基いて、すなはち幼兒死亡と云ふ現象が非常に多くなつて來るのである。勿論大きな社會政策の上からいふならば、幼兒が死ぬと云ふことは、必ずしも斯う云ふ家庭内だけの問題ではなくて、廣い社會の狀態に原因があるのであるけれども、それは暫くそれとして、兎に角く斯う云ふ家庭の缺陷に基く原因を救つてやらうと云ふ所から、所謂幼兒預り所

どか或は保育所と云ふやうなものが起つたのであ

る。ところで此保育所と云ふものは甚だ色々の意味に使はれて居つて、第一どの位の年齢の子供を預るか云ふことに就ても一定して居らぬ。或は又預つた子供をどう云ふ意味に於て保護して行くか云ふことに就ても一定して居ない。或は又どう云ふ設備をしなければ保育所として社會が承認しないか云ふやうな條件も充分に定つて居ない。或は又保育所中に働く人と云ふものはどんな人であるべきか、どんな人で其の事業の實際の中心になるべきであるか云ふことに就ても一定して居ない。つまり年齢に於ても其保育の仕方にも設備に於ても或は其幹部に於きましても充分に定つて居ない。そこで保育所と云ふ言葉は各國色々區々の内容を持つて使はれて居り、我が國の如きも極めて曖昧な言葉であつて、どんなことをしても保育所と名を付けさへすればそこが保育所として認められるといふやうな形になつて居る。そこで、誰も之に就て判然と一定して行く権利もある譯ではないけれども、私は先づ便利上、英國が千九百十九年に發表いたして居る所のデーナーセリーの規則に基いて保育所と云ふのを解釋して

置かうと思ふのである。

其解釋に依ると、三歳以下の子供を預る所を之を保育所として居るのである。其下の年齢は判然定めて居らぬけれども、英國の乳兒保護の政策に於て母親が自分の子供を自分で育てると云ふことを獎勵して居る點から、自分の乳を飲まして居る間は成るべくデーナーセリーに收容することを獎勵しないところが、つまり其意味から大體八箇月位まではなるべくデーナーセリーに預らないといつてよい。即ち母親が自分で之を育て、行くこと云ふやうなことを本體にして解釋して居るのである。勿論、事情によつて、極く小さい乳兒も預るが詰り三歳以下の乳離れをしました子供の世話をするに云ふことを以てデーナーセリーの本體とする。之が先づ、我々が今日稍々判然考へられる保育所と云ふものであらうと思ふ。

所が最近になつて、此家庭の缺陷と云ふことは段段に多くなつて來た。即ち家庭の缺陷と云ふことの意味が段々擴がつて來たのである。物質的の貧乏と云ふことは別に變りはないとしても母の資格と云ふ問題に於きまして色々又是が變つて來た。どう云ふ

點に變つて來たかといふならば、今日の大體の傾向に於ては、母親が家庭に居ないと云ふこと、即ち母親が自分の子供を自分の家庭に於て育て、行く暇がないと云ふことが、必ずしも以前に考へて居たやうな、極く低い意味の勞働階級の問題ばかりでなく、謂はゞ中流階級に稍々近いやうな所まで段々に擴がつて來た。詰り初めは人口政策の上から斯う云ふ幼兒保護問題が發達して來ました時には、極く狭い意味に於ける勞働者即ち工場で働く所の勞働者の家庭を助けると云ふやうな意味が主であつた、所が近世の更に新しい傾向は極く低い意味の社會階級の母親のみが、其子供の保育に於て事缺くばかりでなく、其範圍がずつと擴がつて來たのである。ところ此範圍が擴がつて來ると、此の問題は單純な人口政策から、もつと普遍的な婦人職業問題に關係する所の現象に變つて來たのである。さて婦人職業問題に變つて來るといふと、其處に二つの結果が起つて來た。一つは其幼兒を預る所の範圍が非常に廣くなつて來たこと、それから一面に於ては、其預るべき幼兒の年齢が段々に長くなつて來ると云ふことである。其幼兒の年齢が長くなると云ふことは他の言葉でいへ、

ば、學齡期まで之が延びて來ると云ふことである。つまり問題が年齢に於て段々延びて來ると云ふことは、學齡期まで近付いて來るといふことで、さうすると保育所が三歳以下の子供を預つて居たのに對して、之から又上の二年間と云ふものを何處かで世話をしなければならぬといふことになつて來る。即ち六歳以下の年齢の問題が此處に起つて來る譯である。此處で初めて本當の意味に於ける、嚴密な意味に於ける社會的幼兒問題と云ふものが起つて來る譯である。

元來生れて直ぐの子供を人口政策の上から保護すると云ふことは初めは佛蘭西に起つた事であつて、所謂母親學校と云ふやうな意味に於て起つたのである。それが亞米利加に於てデーナーセリーと云ふ意味に於て行はれた。それが亦段々に今いつたやうな婦人職業問題が擴がつて來て、其要求を滿たす爲に、デーナーセリーと云ふものが段々に其仕事を擴げて來て、即ち今日亞米利加のデーナーセリーと云ふものを見るに必ずしも三歳二歳一歳所謂赤ん坊に屬するものが其處に世話をされて居るばかりでなく、もつと大きな子供が其處に澤山に世話をされて居る。

丁度幼稚園期に屬する子供が其處に澤山に收容されて居るのである。もつと進んでは、更に小學期の小供まで預るやうな傾向を生じて居る。さうなつて來るとデーナーセリーと云ふものは何處まで其働が擴がつて行くか甚だ止る所を知らないやうな状態である。之も決して必ずしも悪いと云ふ譯ではない。デー

ナーセリーと云ふものが初めは社會の必要に於て極く赤ん坊を預つて居たけれども、段々にそれが大きな子供まで延びて行けば、四つになつたものももう、私の所では預らない、小學校へ行くやうになつたから私の所では關係がないと云ふやうなことは云はず、必要に應じて其事業を擴大して行くと云ふのは大に良いことでもありませう。併し、我々がデーナーセリーと云ふ問題を考へる上に於ては、餘り之が擴がつて行きました、何處まで行くのか分らない不便はある。紐育のマンハツタンにあるデーナーセリーなどは其例に於て最も著しいものであつて、極く赤ん坊を入れて居る處のベビークラスもあるけれども、併し可成り大きな働が幼稚園及び小學校期の子供にも及んで居るのである。そこで若しデーナーセリーが其處まで段々進んで來て幼稚園期の子供ま

で入れると云ふことになる。幼稚園とデーナーセリーと云ふものゝ區別が何處にあるかと云ふ問題が當然に起つて來る。即ち幼兒の社會的及び教育的問題と云ふことの其關係なり區別なりが何處にあるかと云ふことになつて來る、我が國に於ける現状は稍々其状態に入つて居る。

### ○保育所と幼稚園

即ち幼稚園と云ふものと、保育所或は托兒所と云ふやうなものがどう云ふ區別があり、何處が違ふかといふ問題になる。之は經濟的に區別するならば、幼稚園は保育料を取つて居る所であり、托兒所は保育料を取らない所であるといふ風もある。即ち亞米利加流の言葉で云ふと、無料幼稚園であると云ふやうな意味に於て此デーナーセリーを普通幼稚園から多少區別することも出来る。併し是は純粹な經濟上の區別であつて、其内容に於てはどう違ふかと云ふ問題は甚だ曖昧になつて來る譯である。ところで亞米利加に於ては幼稚園と云ふ言葉が二つの意味に使はれて居る。一つは幼稚園と云ふものは例へば何々小學校附屬幼稚園とか或は某私立幼稚園であると云ふ

やうに、一つの教育の場所を名付けると云ふ意味に於て使はれる。我々の使つて居るのは其の意味である。それからもう一つは幼稚園即ち、キンダーガルトンと云ふ言葉は教育の方法をあらはすことに用ゐられる。此二つになつて居るのである。即ち今言つたやうなデーナーセリーが子供の年齢を段々擴大して来て、五歳六歳の子供まで居ると、云ふことになつて來ると、此デーナーセリーの中に於て、キンダーガルトンメンソッドを用ひて教育すると斯う云ふ風

な考へ方をして居るのである。亞米利加の良いデーナーセリーでは、多くは衛生的方面の人が世話をして居る。其處へ特別に幼稚園の先生が教育の方面を擔任するといふやり方である。其人が時間を定めて子供の教育をする。其處に始終泊つて居るのもありませんが、或る場合に於ては通勤で來る人もある。さう云ふ風な意味に於て幼稚園と云ふことが幼稚園的の仕方即ち幼稚園教育法と云ふやうな意味に於て使はれて居るのである。さう云ふ風な關係でアメリカではデーナーセリーと幼稚園と云ふものが益々區別が曖昧な關係になつて來る。言換れば社會的幼兒問題と教育的幼兒問題とが段々接近し或は混合して來

て居ると云ふことが云へるのである。ところが、英吉利に於ては之を判然區分する爲に唯今申上げた如く千九百十九年にデーナーセリーの法令を發布して、それを三歳までに限ると共に他の方面に於てナーゼリースクール即ち保育學校と云ふものが初めて出來たのである。

### ○英國の保育學校

其の保育學校と云ふのは英吉利には前からあつた名前であるが、元來英吉利には幼兒學校と云ふものがあつて、それが小學校に附屬をして居る。小學校の前にさう云ふ幼兒教育をするのである。其幼兒學校と云ふ所では、相當に智的な教育を與へて、我が國の言葉でいふならば讀み方書き方及び數へ方と云ふやうな簡單な智的な教育をして居る。それが近世の幼兒教育の思想から云へば甚だ適當でないと言ふやうな議論が起つて來た。それに對して可成り古くから此ナーゼリースクールと云ふものが一方に起された譯であつた。

保育學校と云ふものは矢張り小さい子供を入れるけれども、併し在來のインフアントスクールでやつ

て居りましたやうな智的教育を成るべく避けて、幼稚園的教育をして行く云ふのである。色々の先驅者があるが殊に倫敦に居るマクミランと云ふ人が其方の先覺者であつて、自分でも相當立派なナーゼリースクールを持つてやつて居る。一面にはインフアントスクールがあり一面にはナーゼリースクールがあり、一方では智的教育方法をとり、一方では自由な生活を與へると云ふやうな二つのものが對立して居るのである。之れは英吉利人も長く考へて居つた所であり、今から約十四五年前から、特に政府が其點に非常に注意をし始め、斯う云ふ調査を可成り大仕掛の意味に於てやつたのである。其のために五歳以下の子供を教育する其仕方は現在どう云ふ風な状態になつて居るのであらうか、或は又どう云ふ風なやり方をしたらいふものであらうか、詰り五歳以下の兒童、我々の云ひます所の所謂幼兒期の教育と云ふことに付て調査をした。又一面には歐羅巴の各國の状態を調べる委員を作つたり、皆婦人の委員だけでさう云ふ調査をしました。それに依つて今から十五年前に或る一つの調査報告が相當の内容を持つて發表されて居る。其時に其委員の結論が大體ナ

ーゼリースクールの方を是認する傾向を持つて居つたのである。即ち、インフアントスクールは幼兒に甚だ適當なものでない、そこでインフアントスクールと云ふものは甚だ缺陷がある、併ながら缺陷があるならば直ぐに其インフアントスクールを廢めて仕舞つて學齡に達するまでは學校教育と云ふやうなものに子供を連れて來ない方が適當かと云ふ問題を其處に出して、委員の答は斯う云ふ風になつて居る。

私面白いと思つたのであるが其報告の中に、英吉利の多數の家庭は未だ決して幼兒にとつて悉く完全なものとは云へない。しかも幼兒を小學校に連れて來ると云ふことも色々の弊害がある。併し其不完全な家庭と學校に伴ふて居る弊害缺點と云ふものと引くらべて考へれば、矢張學校を設けた方が宜いと云ふ極く常識的な議論をして居る。何も頭から五歳以下の子供に特別に家庭外の教育をしなければならぬと絶對的の原理として説くのでなくて、成る程それは弊害もあれば缺陷もあるであらうが、併ながら幼兒の爲に一番良き世界である家庭と云ふものにもまだ完全と云ふ譯にいかぬ點があるとするれば、つまり此の方が利があると云ふやうな意味に於て此ナーゼリ

トスクールの必要を説いて居るのである。

英吉利のことですから、何事もゆつくり運んで來るのであるが、それが段々社會的問題になつて、さうしてつい最近に、千九百十八年即ち戰爭の最中でありませう。英吉利の教育の大改革が起つた時に、ナーゼリースクールと云ふものは、斯う云ふ風にすべきものである、といふ相當に委しい一つの法令を發布して、其法令に基いて設けられたものは國家が其經費の約半分を補助すると云ふことにしたのである。勝手に作るならば作つてもいゝといふ從來の態度から、法案に叶つて作るならば其半分の費用を補助すると云ふやうな意味で法令的に承認したのである。

勿論ナーゼリースクールと云ふものは英吉利に於て今日義務教育の中に這入つては居ない。言換れば各地方は必ずナーゼリースクールを作らなければならぬといふ規則ではなく、又總ての子供が必ずナーゼリースクールに行かなければならぬと云ふことにもなつて居ない。英吉利の文部省はナーゼリースクールの利益を述べて、出來るだけの之が多く普及することを希望し、殊に婦人職業問題に密接な關係の

ある地方に於ては、ナーゼリースクールの速かに設けられることを希望すると云ふやうなことを獎勵的に述べては居るが、義務教育にはなつて居ない。併し、義務教育にはなつて居ないけれども、此處に始めてナーゼリースクールと云ふものに依つて五歳までの子供をどう云ふ風に社會的に世話するのが正しいやり方であるかと云ふことが國の教育法令に依つて定つた譯である。或る特別な慈善家が哀れな子供を預かるとか、社會が或る特別な必要に迫られてナーゼリースクールを作るといふのではなくて、國家が五歳までも子供はどう云ふ風に世話するのが適當であるかと云ふことを規定した譯である。そこで前に言つたやうに、千九百十九年の法令でデーナーゼリーを三歳までと限つたのであるが、ナーゼリースクールは二歳から五歳までと云ふ風に定められて居る。二歳と三歳、之が妙に食違つて居るやうであるが、是は兩方共何も義務教育でも又義務機關でもないものであるから、どうしても自由である。英吉利の流儀で其處らは實に各自の自由の餘地が存してある。若し公的に承認せられたデーナーゼリーに子供が這入つて居るならば、それは三歳から後にナー

ゼリースクールに引移つても宜いと云ふことになつて居る。更に若しデーナーセリーに於て必要があるならば、即ち、其近所にナーゼリースクールがないと云ふやうな時には、三歳以上の子供が止まつて居ても宜いと云ふことになつて居る。而してデーナーセリーの方は衛生省と云ふ方で管理して居る。日本で云ふならば内務省の衛生局である。是は戦時中に英吉利が國民衛生の非常に大切なことを感じて、衛生省と獨立したのであるが、其衛生省で管理して居るのである。従つてデーナーセリーの規則は、及びそれを監督する方のことはその方で受持つてやつて居る。それから新しく出来ましたナーゼリースクールの方は文部省の方でやつて居るのである。

### ○保育學校の目的

ナーゼリースクールは今いつたやうな譯で承認されたのであるが、其目的は二つあると考へられて居る。即ち身體的保護、子供の健康に屬する問題と、それから、心の方の一種の訓練、此二つの目的になつて居る。デーナーセリーの方は身體の方が主であつて、さうしてそれに附隨して、矢張精神の方も

幾らか注意しなければならぬと云ふやうな説き方になるのであるが、ナーゼリースクールの方に於ては之が同一の價値を持つた二つの目的として考へられる。身體的の方では栄養と休息と運動と此三つを充分に與へる。さう云ふ目的からナーゼリースクールでは必ず食物を子供に與へる、朝子供が來ると、朝とお晝との間に一度食物を與へる。それから晝の御飯を與へる。それから歸るまでの間に一度又與へる。若し必要であるならば朝飯も與へたら宜からうと云ふやうな議論もある。詰りナーゼリースクールを英吉利の文部省が承認した大きな理由の中には、次の様な理由があるのである。大戦争の結果英吉利の壯丁の健康を調査をして見た所が青年の健康に甚だ缺陷が多い。是は小學校の義務教育の中でもう少し注意しなければならぬと云ふ結論になるのだが、所が小學校の方では小學校期に於て非常な注意を以て子供の健康をはかつて、既に六歳に於て子供を受取つた時に多くはもう身體が悪くなつて居る。即ち入學の時にもう少し早く手を著けて居つたら宜かつたらうと云ふことが屢々起るのである。英吉利の近頃の教育問題のどの中に於ても始終さう云ふ言葉を使



つて居る。何事にももう少し早く手を著けて置いた  
ら宜かつたと云ふのである。で六歳から學校に來ま  
す前に社會が其子供を世話したら宜からうと云ふ  
ことに歸著する。それには學齡前の子供を各家庭に  
任せて、其子供の物質的の缺乏の方を無視し、なる  
やうにならして打捨つて置くこと云ふことではいけな  
い、それを社會が少くとも監督し監視して又世話を  
し得るやうな途を付けてやらなければならぬと云ふ  
ことになる。ナーゼリースクールが其の任にあたる  
譯である。食物は勿論無料で與へる、それから休息  
と云ふことは、之とまあ同じやうな意味のことであ  
るが、即ち學齡前の五歳以下の子供に取つては必ず  
適當な睡眠を與へなくてはならぬ。其爲にナーゼリ  
ースクールに於て必ず設けなければならぬ設備の一  
つとして子供の寢牀を作るのであります。一番良  
いのは折疊の出來る寢椅子であるが、若し已むを得  
なければ何か敷物を板の上に敷いて寢ても宜いと云  
ふやうなことになるつて居る。兎に角晝の食事の後暫  
くの間は必ず寝かすのである。それから運動と云ふ  
のは別に特別な運動法を課する譯ではないが、戸外  
生活と云ふことを非常に重んずる。日光の充分に空

氣のよく流通する庭に於て子供に多くの時間を費さ  
せると云ふことになつて居る。斯う云ふ條件に於て  
充分設備をして居れば詰り文部省の認可を得られる  
譯で、其費用の半分の補償を得る譯であるから斯う  
云ふことも相當に豊かに出來る譯なのである。

それから訓練の方に於ては前にいつたインファン  
トスクールに於ては読み方書き方數へ方と云ふやう  
なものを教へたのであるが、今度出たナーゼリス  
クールの方に於ては絶對的に読み方書き方數へ方を  
教授することを禁じて居る。詰り教授と云ふことを  
一切させないのである。然らば、どう云ふことを主  
にするかと云へば、我國の言葉では甚だ適當でない  
が、生活作法と云つたやうなことを訓練する。日本で  
行儀作法と云ふのは人に對する禮を失しないやうに  
とか、或は紳士として或る形をしようと云ふやうなこ  
とであるが、ナーゼリースクールに於て要求されて  
居る生活作法と云ふのは、即ち生活に關する作法で、  
作法正しく御飯を食べるといふのは、何も食卓禮式  
をどうすると云ふばかりでなく、適當な定つた時間  
に食事をする、能く噛んで食べると云ふやうなこと  
を含むのである。不淨場などをなるべく汚さないや

うにする、或は手が汚れて居れば、綺麗に洗ふとか  
と云ふのが生活作法でさう云ふ意味に於て訓練をさ  
せるのである。

其他に所謂從來の幼稚園でやつて居るやうな、教  
授ではないが一種の智的訓練、即ち幼稚園の言葉で  
云ふ感覺の訓練と云ふやうなことをもする。但し感  
覺の訓練と云つても特に英吉利の文部省が注意して  
居ることは感覺の基本的發達であつて、餘り細い感  
覺の識別作用などは教へてはならないと云ふことにな  
つて居る。

感覺の訓練と云ふことは御承知のやうにモンテッ  
ソリーが特に世間の注意を惹いて居る問題である。  
モンテッソリーの感覺訓練と云ふことは細い感覺の  
差を識別することである。例へばモンテッソリーは  
あの觸はるものに於いても天鷲絨と他の切れとを觸  
り方で區別させるとか、或は色にすると、例の色の  
絲巻きのやうなものがあつて、色の濃淡の區別をす  
る。所がナーゼリースクールに於てはさう云ふ感覺  
識別力の訓練はしてはいけなさと云ふことを云つて  
居る。そんならはどう云ふことをするかと云へば、例  
へば音なら音に就ても、モンテッソリーの所でやつ

て居りますやうな、細く此音と此音と何方が大きい  
か、此音は何の音だ、此音は鋼鐵の音だ、此音は錫  
の音だと色々聞分けるのでなく、耳の感覺の訓練と  
云ふことは色々の音に對して能く聞へさへすれば宜  
い、或は其音に對して注意深く音を聞き得る聽覺注  
意の働を發達させて行けば宜いとす。或は視覺の  
方にすれば、色々の細い區別を、赤なら赤を並べて  
どつちが濃いか淡いかと云ふさう云ふ細い問題でな  
くて、色と云ふものに就て注意を持つことが出來れ  
ば宜いとす。何も抽象的に取出して實驗心理學の  
方でやるやうな色彩感覺の區別と云ふやうなことを  
しなくても宜いと云ふ説き方をして居る。之れは非  
常にいゝことだと私は思つて居る。

### ○保育學校の實際

それから此ナーゼリースクールの實際の方面を見  
ると、先づ四十人位を一學校の普通の定員として居  
る。但し、事情によつて、百人までは許される。併  
ながら百人以上を越へることは出來ないことになつ  
て居る。それから其處で働く所の人は日本流に云ひ  
ますならば、主任の人と、其主任を助けて行く所の

主任補助、それから保母、それから甚だ妙な言葉であります。が日本流に云へば見習と云つたやうなもの、之だけの人が必要だと云ふことになつて居る。四十人であつても之だけの人が居なければならぬのである。詰り其主任が總ての經營のことから役所の關係或は教育の色々の取締りと云ふやうな事をする。補助はそれを補助する。それから保母は其子供の直接の世話をする。それから見習と云ふのは英吉利流の一般のやり方であるが、十八歳以下の若い人が將來保母となり補助となり主任となる見込を以て此處に行つて働いて居るのである。是は有給の見習であるが、十八歳以下の若い人を使つて居る。斯う云ふ風であるから、ナーゼリースクールと云へば極めて簡單なものやうであるけれども、四十人五十人の子供をたつた一人の人が保育して居ると云ふやうなやり方は許さないのである。私が一番委しく見たナーゼリースクールは先き程申したマーガレット、マクミラン女史のやつて居る倫敦の場末にあるものだがそこではマーガレット、マクミラン女史が主任となつて、さうして幾人も保母や見習が居る。其設備は決して立派な建築と云ふ譯ではないが室の一面は吹曝

しで、南を向いた方は丸で戸もなく障子もなく柱だけの建て方である。其處を開けて置けば全く戸外生活に繋がつて行くやうな建て方である。それから其建物に比較しましては立派な臺所があつて、其臺所で色々料理を拵つて食べさせる。ナーゼリースクールに臺所と云ふものは非常に必要なものである。子供達の晝寝の設備としては、此處では矢張折疊みの出来る椅子を用ひて居つて、其椅子をいらぬ時は疊んで片付けて居るが、時間になると出して寝ると云ふやうなやり方をして居る。たゞに、此所ばかりでなく、其他多く見たナーゼリースクールの中にはまだ斯う云ふ立派な整つた形を持つて居るものばかりではなかつたが、兎に角食物を與へること、休息を與へること、戸外運動が出来ることと云ふだけの最少限度に合するやうにはなつて居つたのである。

彼の意識しないもの——此れこそ人が喜んで所有し様とする種の性質を含んで居る生命である。

トルストイ